



Aluminum lightens the world
アルミでかなえる、軽やかな世界

2021年度 第2四半期 決算説明会資料

2021年11月4日
株式会社UACJ



目次

1. 2021年度 上期業績

2. 構造改革の進捗

3. 2021年度 通期業績見通し

4. サステナビリティへの取り組み

5. ご参考データ

1. 2021年度 上期業績



経常利益 258億円(前年同期実績 △26億円)

■ 数量：前年同期比 大幅増

- UATH*1(タイ)、TAA *2 (米国)の缶材が引き続き増加
- 自動車を中心とした輸送用機械向けは需要回復により、増加

■ 経常利益：前年同期比 大幅増

◎増益要因

- 国内事業業績改善(コロナ影響回復含む)
- UATH業績改善
- TAA業績好調継続
- 棚卸資産影響の好転

△減益要因

- 特になし

*1 UACJ (Thailand) Co., Ltd..

*2 Tri-Arrows Aluminum Holding Inc.

1. 2021年度 上期 業績

上期 業績

(単位:億円)	2020年度 上期 (A)	2021年度 上期 (B)	増 減 (B) - (A)
連結売上高	2,646	3,650	1,004
連結営業利益	△ 11	299	310
棚卸資産影響前 連結経常利益	5	132	127
棚卸資産影響額	△ 31	126	157
連結経常利益	△ 26	258	284
連結当期純利益	△ 51	173	224
Adjusted EBITDA	185	327	142

※ 連結当期純利益:親会社株主に帰属する当期純利益

※ Adjusted EBITDA: EBITDA - 棚卸資産影響

1. 2021年度 上期 業績

セグメント別 売上高・営業利益

(単位:億円)	2020年度 上期 (A)		2021年度 上期 (B)		増 減 (B) - (A)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
アルミ圧延品	2,226	20	3,269	326	1,043	306
加工品・関連事業	779	△ 10	765	2	△ 14	12
(調 整 額)	△ 359	△ 21	△ 384	△ 29	△ 25	△ 8
合 計	2,646	△ 11	3,650	299	1,004	310

1. 2021年度 上期 業績

アルミ板 品種別売上数量

(単位:千トン)

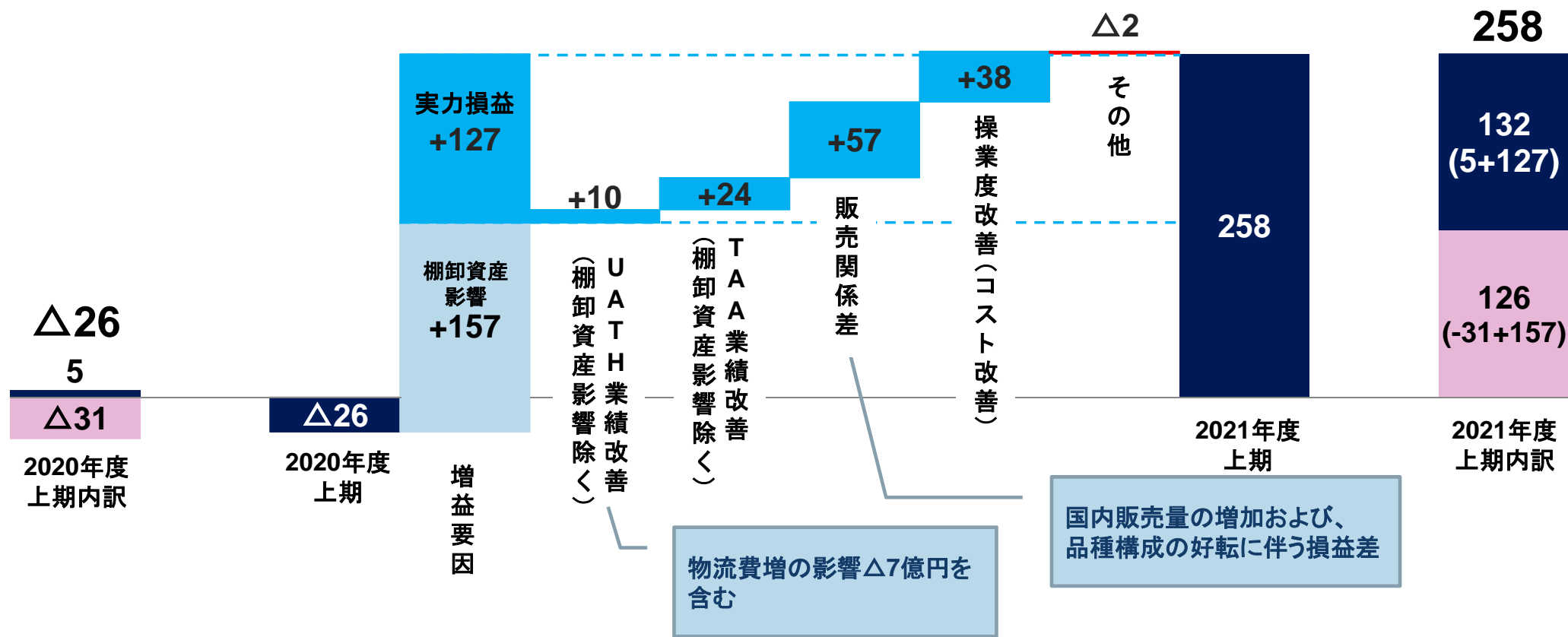
品 種	2020年度 上期 (A)	2021年度 上期 (B)	増 減 (B) - (A)
缶 材	359	409	50
箔 地	26	29	3
I T 材	13	7	△ 5
自 動 車 材	50	73	23
厚 板	19	25	6
その他一般材	71	107	36
合 計	537 〔 国内市場向け 215 海外市場向け 322 〕	650 〔 国内市場向け 245 海外市場向け 405 〕	113 〔 国内市場向け 30 海外市場向け 83 〕

1. 2021年度 上期 業績

連結経常損益分析 (2020年度上期 → 2021年度上期)

△26億円 (2020年度上期) → 258億円 (2021年度上期)

(単位: 億円)



棚卸資産影響

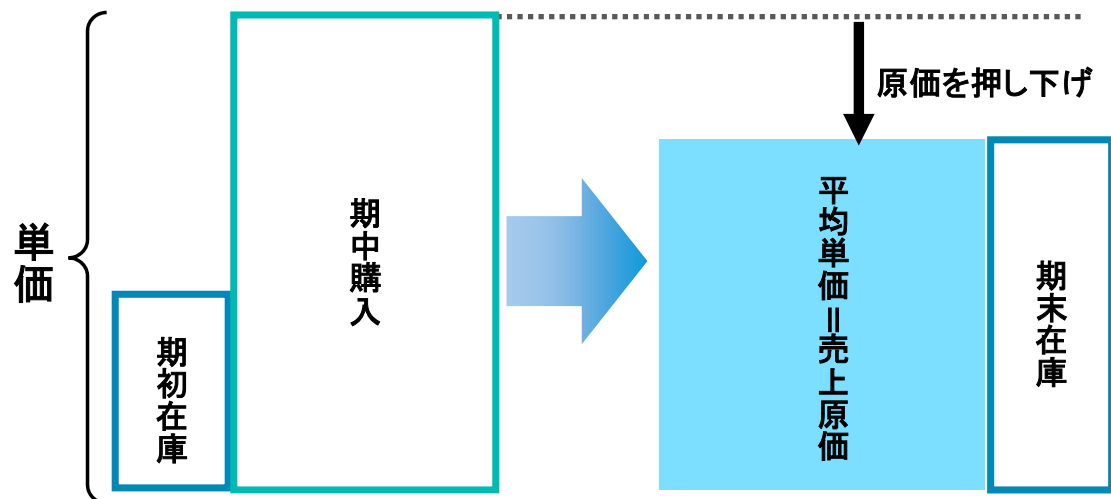
アルミ圧延事業における棚卸資産影響

- ① 平均法による材料費計算
期首在庫と期中購入アルミ地金の加重平均で、材料費を計算(期首在庫が影響)
- ② アルミ地金価格変動による販売価格反映への時間的差

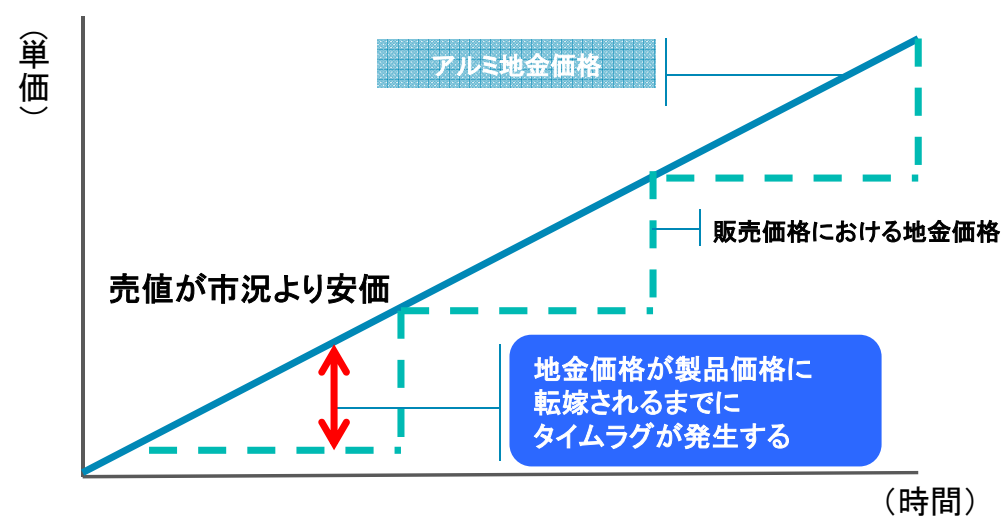
①+②= 棚卸資産影響

【2021年度:アルミ地金価格上昇】

① 平均法による材料費計算

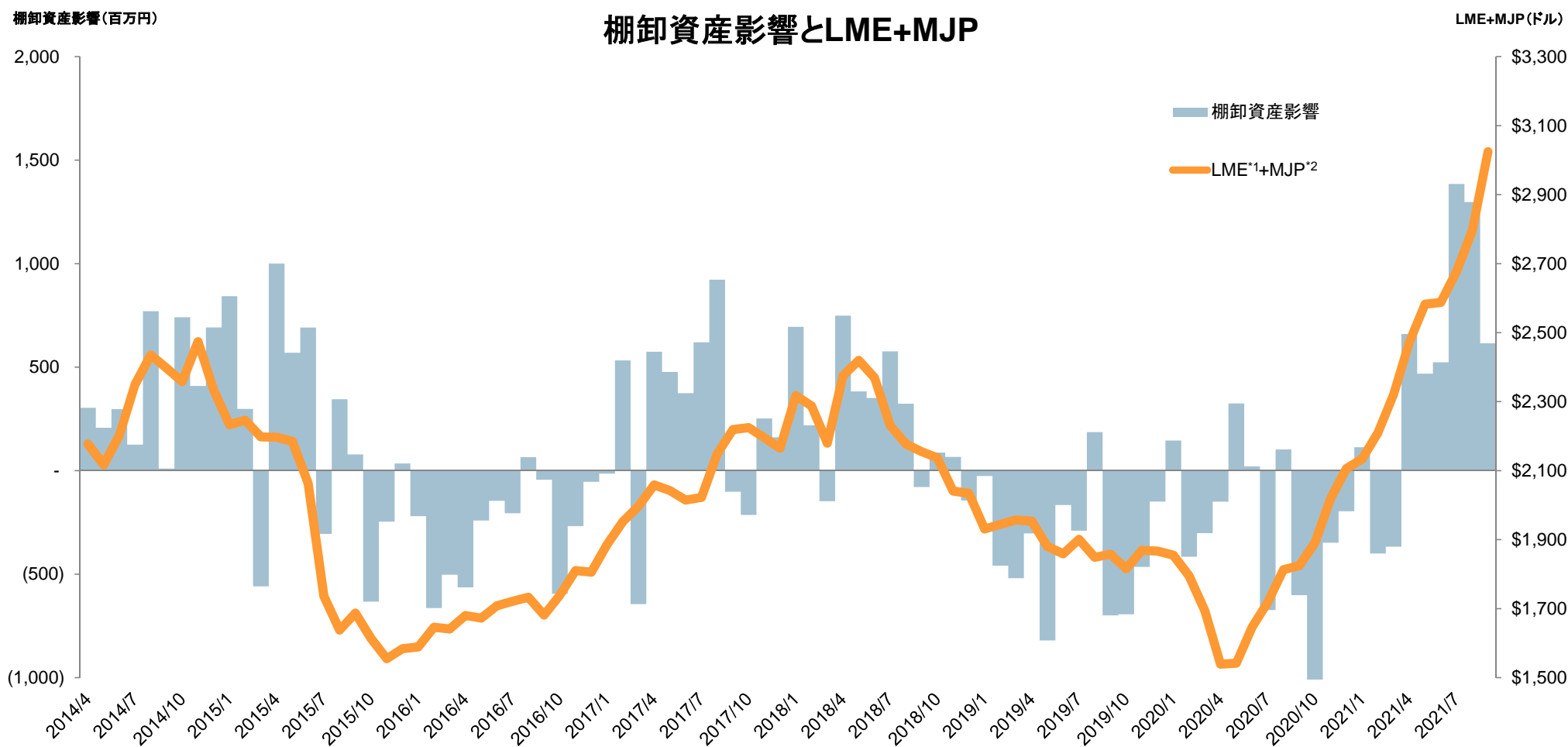


② アルミ地金価格変動による販売価格反映への時間的差



1. 2021年度 上期 業績

棚卸資産影響と地金価格相場の関係性



*1 LME ロンドン金属取引所(London Metal Exchange)に上場しているコモディティ

*2 MJP 対日アルミ新地金プレミアム

1. 2021年度 上期 業績

連結貸借対照表

販売の回復、地金価格の上昇により棚卸資産等が増加

(単位:億円)

	21/3末	21/9末	21/3末比 増減額
現金及び預金	281	288	7
受取手形及び売掛金	1,200	1,376	176
棚卸資産	1,317	1,625	308
その他流動資産	148	200	52
有形・無形固定資産	4,003	3,968	△ 35
投資その他の資産	381	397	16
資産合計	7,330	7,854	524
支払手形及び買掛金	1,011	1,097	86
短期借入金	1,100	1,166	66
長期借入金	2,257	2,104	△ 153
その他	996	1,287	291
株主資本合計	1,775	1,940	165
その他包括利益・支配株主持分	190	260	70
負債及び純資産合計	7,330	7,854	524

アルミ地金等
価格上昇による増加

1. 2021年度 上期 業績

連結キャッシュフロー計算書

運転資金増加するもフリーキャッシュフロー黒字を維持

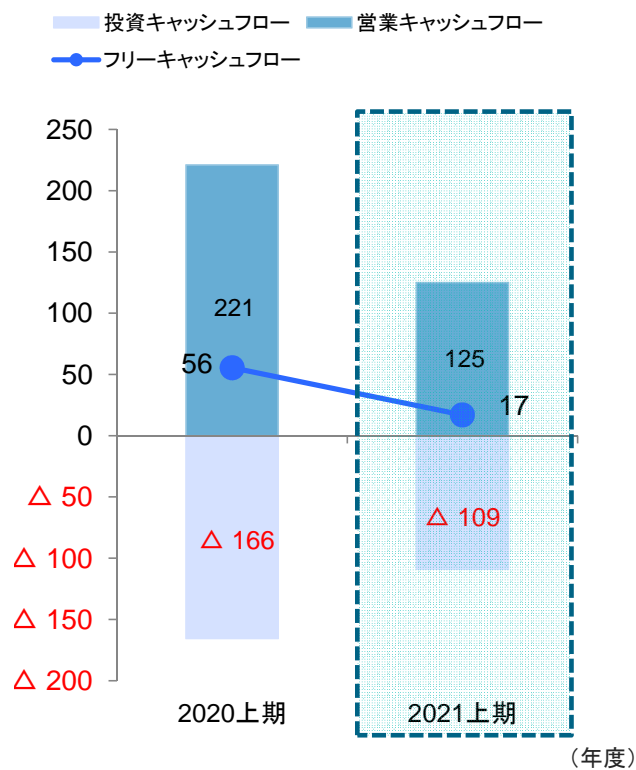
2021年度2Q 連結キャッシュフロー(概算)

(単位:億円)

税引前利益	254
減価償却費(のれん含む)	168
アルミ地金価格等の上昇による 運転資金の増加他	△ 297
営業キャッシュフロー計	125
設備投資 他	△ 109
フリーキャッシュフロー	17
その他財務CF	79
現預金増減(△は増加)	△ 8
有利子負債の減少	88

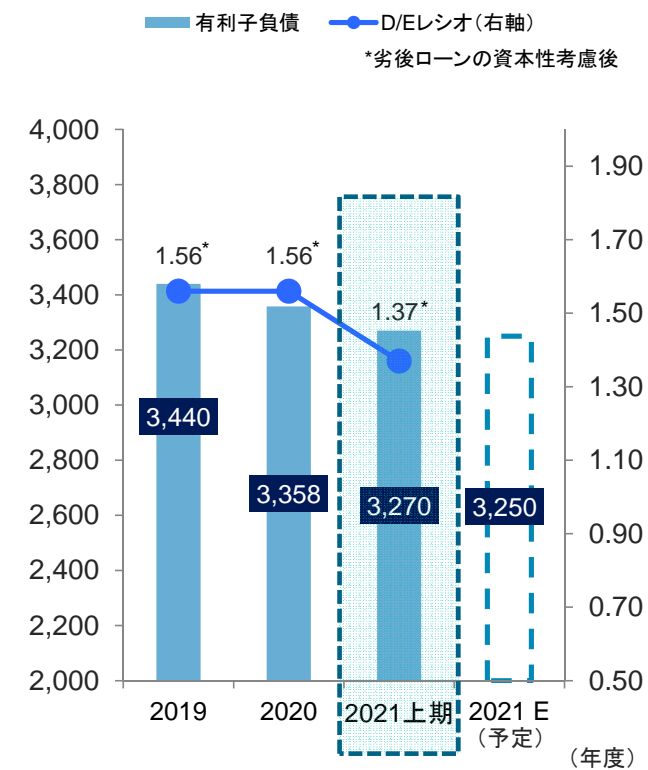
連結キャッシュフロー 推移

(単位:億円)



有利子負債残高・D/Eレシオ

(単位:億円)



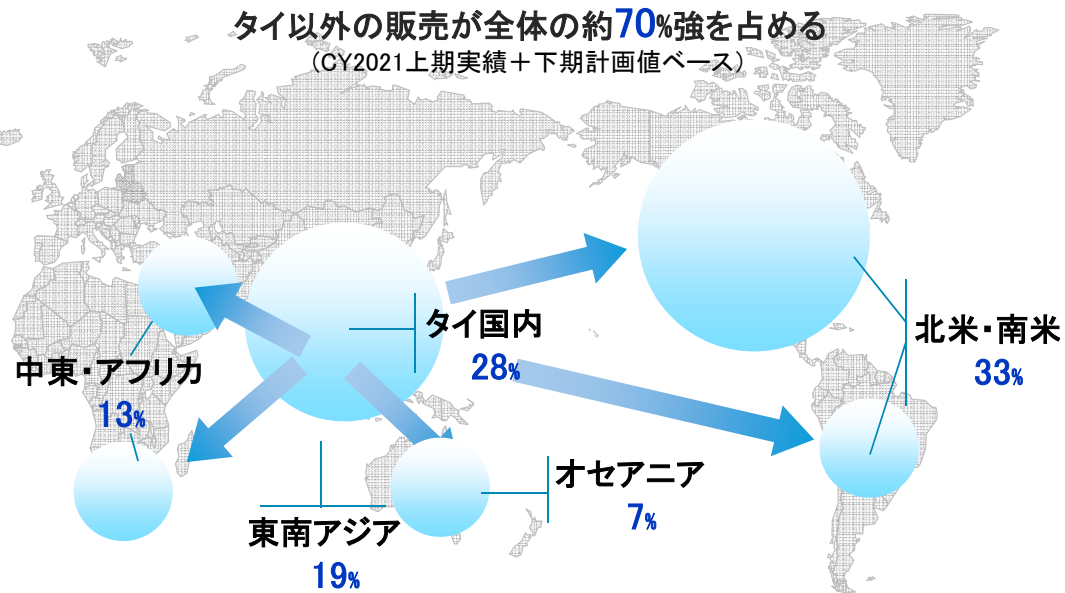
1. 2021年度 上期 業績

タイ(UATH)の状況 ~2021年度 上期総括

缶材に加え、自動車熱交材、エアコンフィン材も最終製品の需要増加により販売が増加

販売展開エリアの販売比率(世界25カ国)

タイ以外の販売が全体の約70%強を占める
(CY2021上期実績+下期計画値ベース)



上期業績のコスト上昇要因

- エネルギー単価の高騰
- 海運運賃を始めとした物流コストの高騰



物流コスト等、顧客への負担を交渉中

上期 総括

需要 : 缶材、自動車熱交材、エアコンフィン材共に、需要は堅調も、缶材の輸出については世界的な輸送遅延の影響を受け一部出荷が遅延

生産量 : 約27千t / 月(上期:1~6月)

販売量 : 約27千t / 月(上期:1~6月)

損益 : (億円)

	20年度 上期実績	21年度 上期実績	前年同期比
売上高	348	592	244
営業利益	△ 20	34	54
経常利益	△ 18	10	28
棚卸資産影響前 経常利益	△ 15	△ 5	10

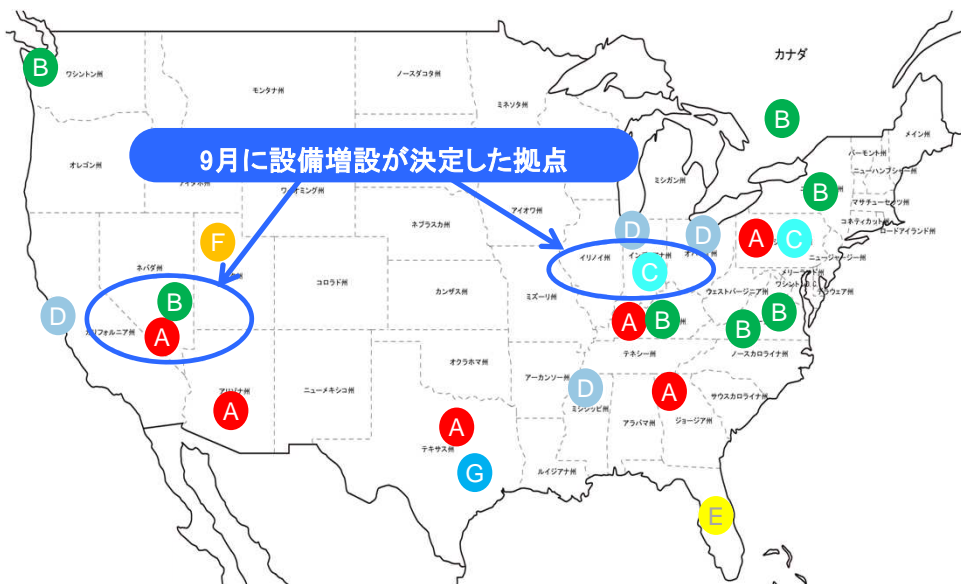
1. 2021年度 上期 業績

米国(TAA)の状況 ~2021年度 上期総括

強みである3極連携をフルに活用しながら、旺盛な北米缶需要を取り込み、増収増益

アメリカ国内主要製缶メーカー7社の製造拠点分布

主要製缶メーカーの生産設備拡張は継続
9月だけで100億缶(当社調べ)の増産設備の投資が決定



上期 総括

缶材需要 : 旺盛な需要環境継続

販売量 : 約42千t / 月(上期:4月~9月)

生産能力 : 約450千t / 年体制確立

損益 : (億円)

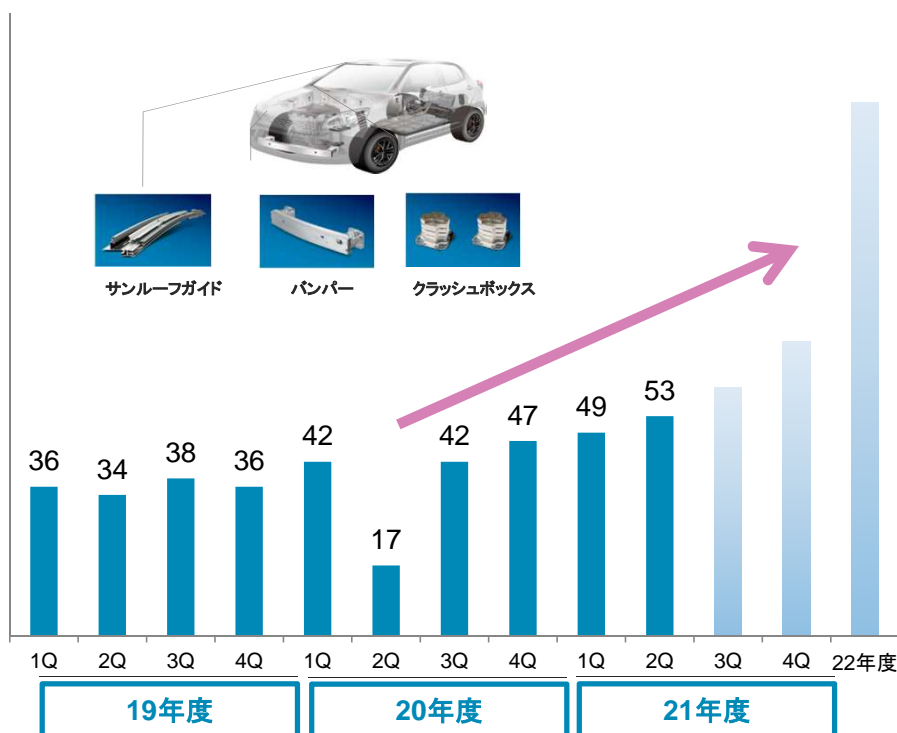
	20年度 上期実績	21年度 上期実績	前年同期比
売上高	618	1,108	490
営業利益	29	163	134
経常利益	17	151	134
棚卸資産影響前 経常利益	33	57	24

1. 2021年度 上期 業績

米国(UWH^{*1})の状況 ～2021年度 上期総括

EV向けアルミ構造部品の受注量増加に加え、新規量産品が4Qから販売開始

UWH 売上高推移(単位・億円)



*1 UACJ Automotive Whitehall Industries, Inc.

*2 20年度上期…2020年1月～6月

*3 21年度上期…2021年4月～9月

上期 総括

- 需要 : コロナの減産から需要が回復基調
各OEM・新興EVメーカーから増産要求あり
- 販売 : 新興EVメーカー向けを中心に着実に増加
→2022年度より既受注増車種の量産開始
- 生産体制 : アリゾナ州新工場は稼働準備が整う
顧客の稼働待ち

(億円)			
損益	20年度 上期 ^{*2} 実績	21年度 上期 ^{*3} 実績	前年同期比
売上高	58	102	44
営業利益	△ 15	△ 8	7
経常利益	△ 17	△ 9	8

2. 構造改革の進捗



2. 構造改革の進捗

構造改革の進捗

各施策はロードマップに沿って計画通りに進捗

施策		2019年度		2020年度				2021年度				2022年度				
		3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	
生産拠点集約			★深谷下工程	一部停止	日光移管完了★	押出小山/名古屋プレス集約★						★深谷下工程	停止完了			
		移管・品質確認・人員再配置調整														
		集約効果										集約効果のフル貢献				
収益化	大型投資	UATH		3期設備 品質確認・生産量拡大				販売 32万トン/年 体制								
		TAA		★新冷延 稼働 品質確認				販売 45万トン/年 体制								
不採算分野/ ノンコア分野撤退		売却・撤退候補分野の撤退検討				売却・撤退の実施				継続的な撤退の検討						
マネジメント	取締役・ 役員体制見直し		新体制検討		新体制準備		新体制での運営									
	組織・権限・ コーポレート 機能改革		マスタープラン・ ロードマップ策定		詳細設計				コーポレート組織 一部見直し実行				改革実行フェーズ			
	理念・価値観の 再確認と再構築		見直し案の策定		浸透活動											

● 現時点

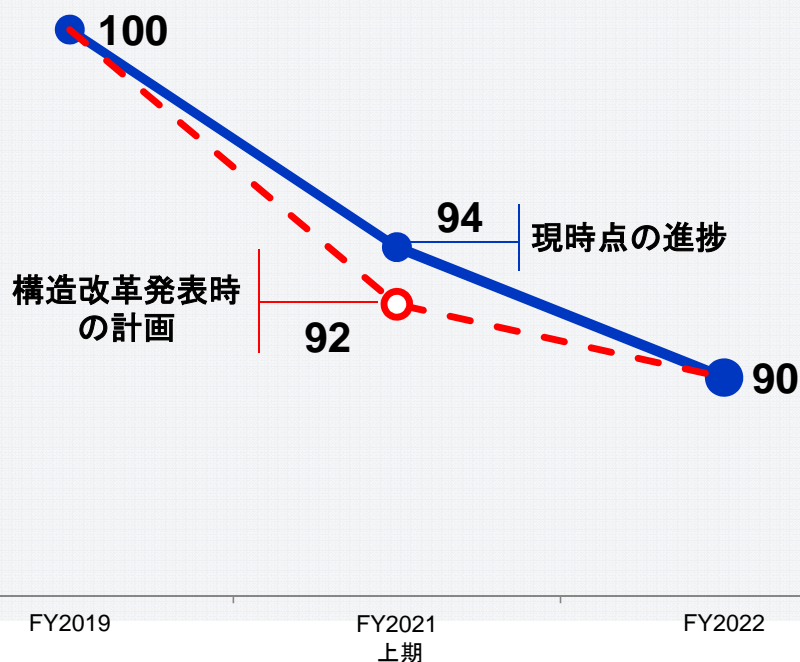
2. 構造改革の進捗

構造改革施策の効果

損益分岐点の推移は今までの構造改革の取り組みにより、着実に下がってきている

国内板事業 損益分岐点の推移

2019年度実績を100とした時の指数



損益分岐点引下げの取り組み

- 生産拠点の集約化による固定費削減・稼働率向上
 - ・日光製造所閉鎖→自動車熱交材のUMP*への集約 → 完了
 - ・深谷製造所下工程停止 → 名古屋・福井へ集約 → 遅れて進捗
 - ・押出小山/名古屋 プレス集約と最適化 → 活動中
- 採算性の向上
 - ・注力・成長分野への対応 → 活動中(計画通り)
 - ・低採算分野の是正・撤退 → 活動中(大半は実施済)
- 最適生産体制の構築
 - ・自動車材の生産性向上 → 計画通り
 - ・福井新CALP(自動車材仕上げライン)活用による製造所間の品種/工程分担の見直し、最適化 → 遅れて進捗
- 間接費用の削減
 - ・間接人員の削減等 → 計画通り
 - ・IT化投資等による業務プロセスの改善 → 活動中(計画通り)

2. 構造改革の進捗

構造改革実施による収益改善効果

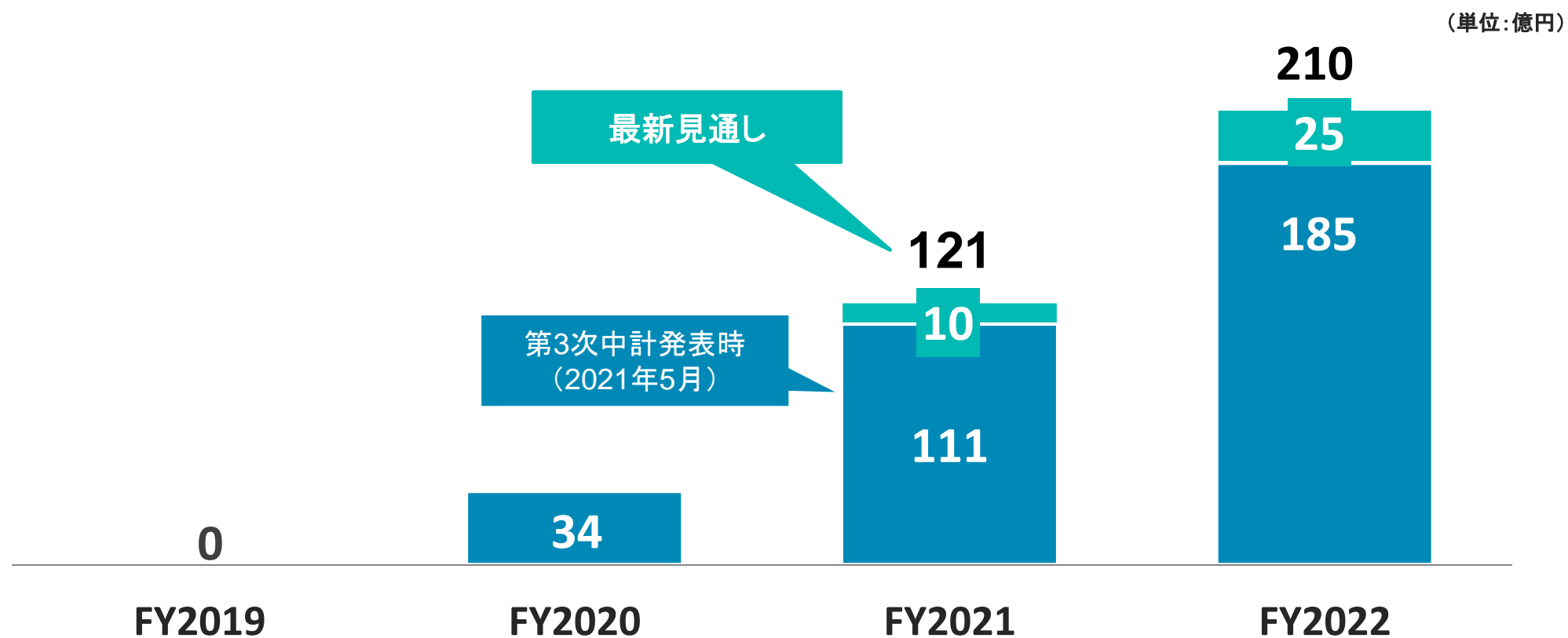
追加施策実施により、構造改革効果は210億達成に目途

	構造改革発表時 (2019年9月)	第3次中計発表時 (2021年5月)	最新見通し
国内 : 収益構造改革	+100億円	+67億円	+96億円
生産拠点集約	+40億円	+34億円	+23億円
最適生産体制・品種構成改善(自動車材・電池材増加)	+50億円	+25億円	+65億円
間接費削減(間接人員削減等)	+10億円	+8億円	+8億円
海外 : 大型投資収益化	+110億円	+118億円	+114億円
UATH 第3期投資稼働開始で、販売量拡大とコスト削減	+70億円	+76億円	+76億円
TAA 増産投資完了による販売量増加、価格改定実現	+20億円	+19億円	+19億円
UWH 収益性重視の受注、押出機を生かし売上拡大	+20億円	+23億円	+19億円
構造改革効果	+210億円	+185億円	+210億円

2. 構造改革の進捗

構造改革効果の推移

製造コスト低減、ロールマージン改定などの追加施策により、構造改革発表時の目標達成に



3. 2021年度 通期業績見通し



3. 2021年度 通期業績見通し

2021年度 通期業績見通し

(単位: 億円)	2021年度 (5月時見通し) (A)	2021年度 (8月時見通し) (B)	2021年度 (最新見通し) (C)	2020年度 (D)	増減 (C)－(A)	増減 (C)－(B)	増減 (C)－(D)
連結売上高	6,600	7,000	7,500	5,698	900	500	1,802
連結営業利益	220	330	500	111	280	170	389
棚卸資産影響前 連結経常利益	99	134	210	62	111	76	148
棚卸資産影響額	61	116	190	△ 2	129	74	192
連結経常利益	160	250	400	60	240	150	340
連結当期純利益	80	120	200	△ 33	120	80	233
Adjusted EBITDA	508	549	630	447	122	81	183

3. 2021年度 通期業績見通し

アルミ板 品種別売上数量(最新見通し)

(単位:千トン)

品 種	2021年度 (5月時見通し) (A)	2021年度 (8月時見通し) (B)	2021年度 (最新見通し) (C)	増 減 (C)－(A)	増 減 (C)－(B)
缶 材	845	847	842	△ 3	△ 5
箔 地	59	58	59	0	1
I T 材	19	18	17	△ 3	△ 1
自動車材	155	157	148	△ 7	△ 9
厚 板	49	51	53	4	2
その他一般材	201	211	212	11	0
合 計	1,328 国内市場向け 505 海外市場向け 824	1,342 国内市場向け 504 海外市場向け 838	1,330 国内市場向け 492 海外市場向け 838	1 国内市場向け △13 海外市場向け 14	△ 12 国内市場向け △12 海外市場向け 0

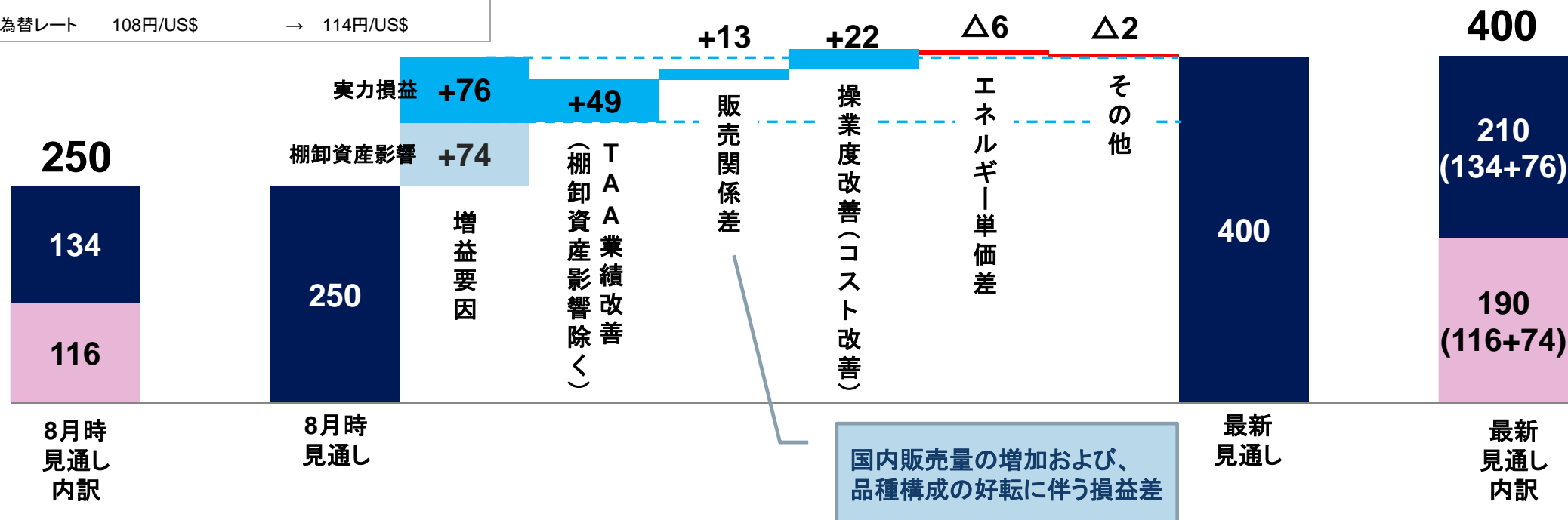
3. 2021年度 通期業績見通し

連結経常損益分析 (2021年度8月時見通し → 2021年度最新見通し)

250億円 (2021年度8月時見通し) → 400億円 (2021年度最新見通し)

前提条件	8月時前提	最新前提
LME	上期) 2,400ドル/t 下期) 2,100ドル/t	→ 上期) 実績 下期) 2,600ドル/t
ドバイ原油	72 \$/B	→ 80 \$/B
為替レート	108円/US\$	→ 114円/US\$

(単位: 億円)



3. 2021年度 通期業績見通し

アルミ板 品種別売上数量(2020年度 対 2021年度最新見通し)

(単位:千トン)

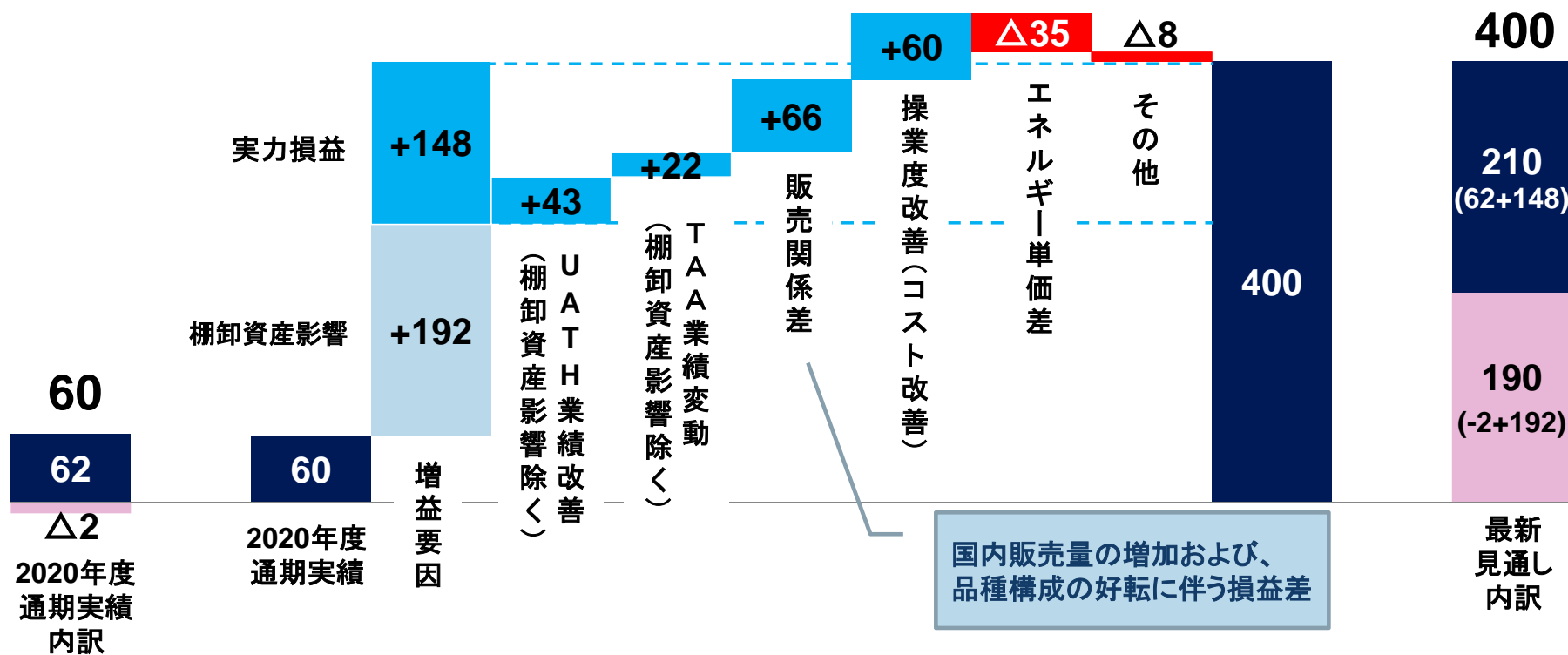
品 種	2020年度 通期 (A)	2021年度 最新見通し (B)	増 減 (B) - (A)
缶 材	693	842	149
箔 地	52	59	7
I T 材	25	17	△ 8
自 動 車 材	123	148	25
厚 板	42	53	12
その他一般材	180	212	32
合 計	1,113 国内市場向け 441 海外市場向け 673	1,330 国内市場向け 492 海外市場向け 838	216 国内市場向け 51 海外市場向け 165

3. 2021年度 通期業績見通し

連結経常損益分析 (2020年度 → 2021年度最新見通し)

60億円 (2020年度) → 400億円 (2021年度最新見通し)

(単位: 億円)



設備投資・減価償却費

減価償却費の約7割が設備投資額の上限
気候変動対策等へ一定額を配分し、計画的に進める

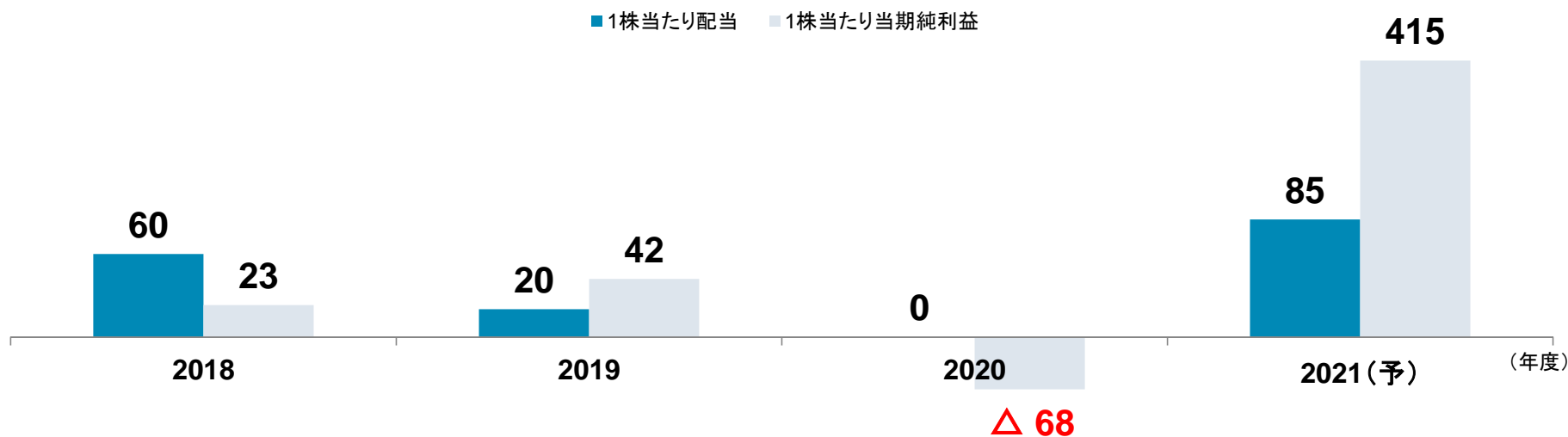
(単位:億円)		2020年度 上期	2020年度 通期	2021年度 上期	2021年度 最新見通し
		設備投資	一般投資	61	109
戦略投資	39		72	34	88
合計	100		181	110	298
減価償却費		166	334	169	349

株主還元

好調な市況による業績改善により45円増配し、1株当たり配当金を85円とする

- 還元方針 : 長期的な総還元性向は30%以上を目標とする
- 配当 : 連結配当性向20~30%を目途に、安定的かつ継続的な配当を目指す
- 株式価値の向上 : 確実な利益・キャッシュフローの確保、資本市場との対話で価値向上を目指す

1株当たり配当 / 1株当たり当期純利益(円)



外部環境の変動と当社の対応

外部環境の変動に柔軟に対応し、影響を最低限にとどめるべく施策を実行

外部環境の変動	当社事業へのリスク	対応
半導体不足や東南アジアのサプライチェーン混乱の影響	自動車部品の販売量減による売上高減少	お客様の生産動向を注視しながら、製販一体となった活動を展開していく
添加金属の調達・価格高騰リスク	マグネシウム、メタルシリコン等、添加金属の調達及び、価格高騰による利益圧迫	2021年度に使用する添加金属については調達済 今後も売価の適正化や省材化に取り組む
物流費の高騰	コンテナ価格高騰による海上輸送コストの高騰	お客様と物流費を価格に転嫁出来るような契約条件の変更交渉を進めている
新型コロナウイルスの感染拡大	ロックダウンでの工場の閉鎖、また稼働率の低下を起因とする販売量の減と売上高の減少	ベトナム工場*が一時的に稼働を制限。 10月より生産再開し、10月末時点において9割程度の稼働状況
北米飲料缶需要の拡大	新規投資時期の後ずれによる販売機会の損失	様々な施策を検討中

4. サステナビリティへの取り組み



4. サステナビリティへの取り組み

UBCの一貫処理体制構築への取り組み(CO₂排出量削減)

アルミニウム製品の環境負荷低減サイクルの構築を国内で推進

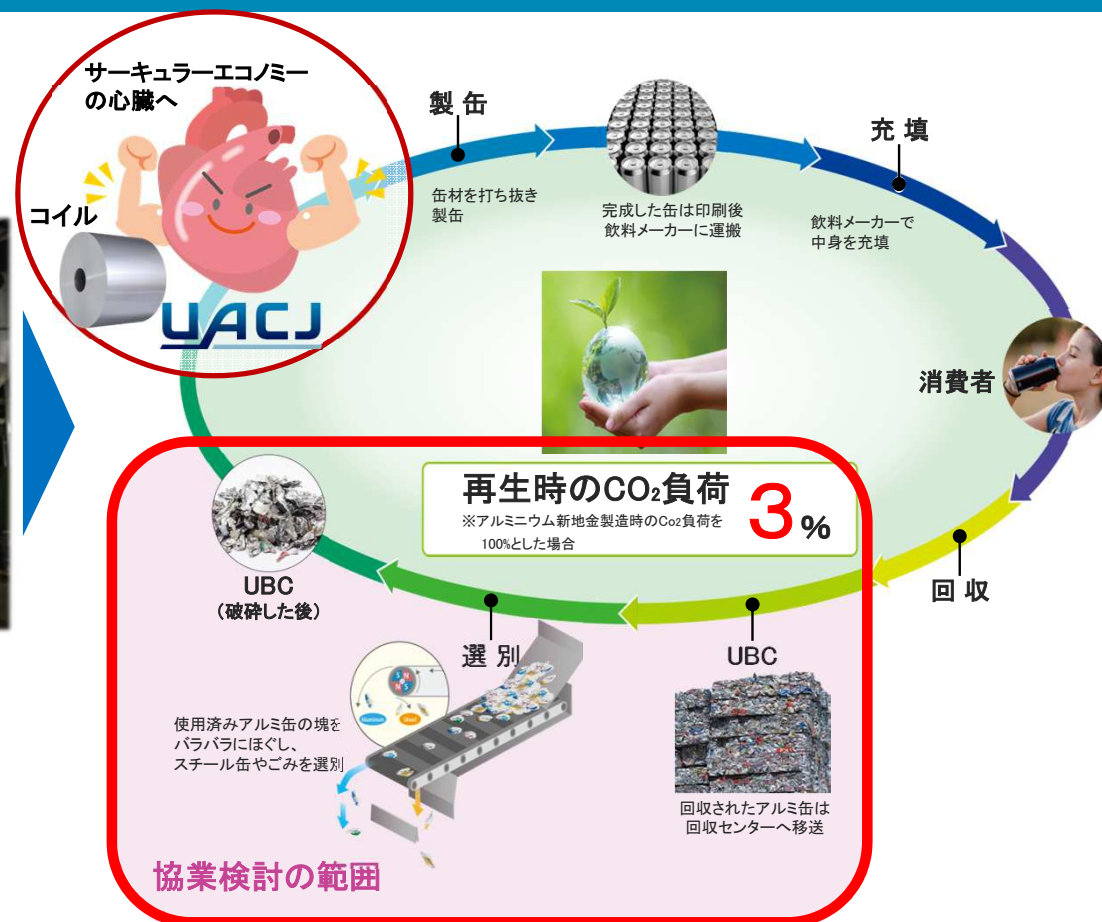
UBCの加工処理に関し、
山一金属様*1と協業に向
けた検討を進める



当社の強みである鋳造設備
をフル活用させたい



国内缶材のクローズドルー
プリサイクル*2を主導的に
確立し、CO₂排出量削減に
大きく貢献したい



*1 山一金属株式会社様 <https://yamaichi-metal.com/>

*2 クローズドループリサイクル 素材として再利用するリサイクル。不純物を除去することにより、同じ素材として循環利用するリサイクルを指す

4. サステナビリティへの取り組み

ラヨン製造所 太陽光発電システム導入

世界最大級*1の太陽光屋根置き発電システムを導入し、工場稼働に必要な電力に充当



ラヨン製造所(UATH) 太陽光パネル設置イメージ

太陽光パネルの設置容量等

太陽光パネル設置容量	18MW
発電電力量	約25GWh/年 (日本の一般家庭約7,900戸分に相当)
CO2削減量	約1.4万t-CO ₂ /年 (ラヨン製造所の年間総排出量の約6%に相当) (タイ政府公表値 CO ₂ 排出係数(0.566kg/kWh)で算出)
太陽光パネル総面積	約8.7万m ²

持続可能で豊かな社会の実現に向け、環境負荷軽減への取り組みを積極的に推進

4. サステナビリティへの取り組み 気候変動への対応

TCFD*1提言への賛同を表明し、気候変動への対応をより一層強化



2021年9月にTCFD提言へ賛同を表明、
同月にコンソーシアムへ加入

TCFDの提言に基づき、積極的な情報開示を継続して実施

ガバナンス

気候変動対策推進委員会(2021年4月～)を設置
経営層によるガバナンス体制を強化

戦略

目標達成に向けてロードマップ作成を進行
来年度以降、継続的な開示・報告を計画

リスク管理

組織横断的なメンバーで、リスクと機会を特定し、
TCFDの枠組みに沿うシナリオ・ロードマップの作成を進行

指標と目標

2030年度におけるサプライチェーン全体でのCO2排出量を、2019年度比
22%削減(BAU*2比)と設定
目標達成に向けて、施策を検討中

(ご参考)

2021年9月15日付リリース [「気候関連財務情報開示タスクフォース\(TCFD\)」提言への賛同表明、およびTCFDコンソーシアムの参画について](#)
2021年度版統合報告書 [P41~42記載](#)

*1 TCFD 気候関連財務情報開示タスクフォース。Task Force on Climate-related Financial Disclosures

*2 BAU 何も対策を講じずに現状(生産量、品種構成)を維持した状態。Business as usual

5. ご参考データ



5. ご参考データ

統合報告書 公開のお知らせ



■ 2021年9月30日、最新の統合報告書を当社HPで公開

■ 「UACJ VISION 2030」「第3次中期経営計画」をもとに、
経営理念・ありたい姿を実現するために、また持続的な成長を
実現するために何を重要と考えているかを中心として編集

■ 特集として、米国の旺盛な缶材需要への対応、
自動車部品事業を取り上げたほか、サステナビリティへの取り組みを紹介

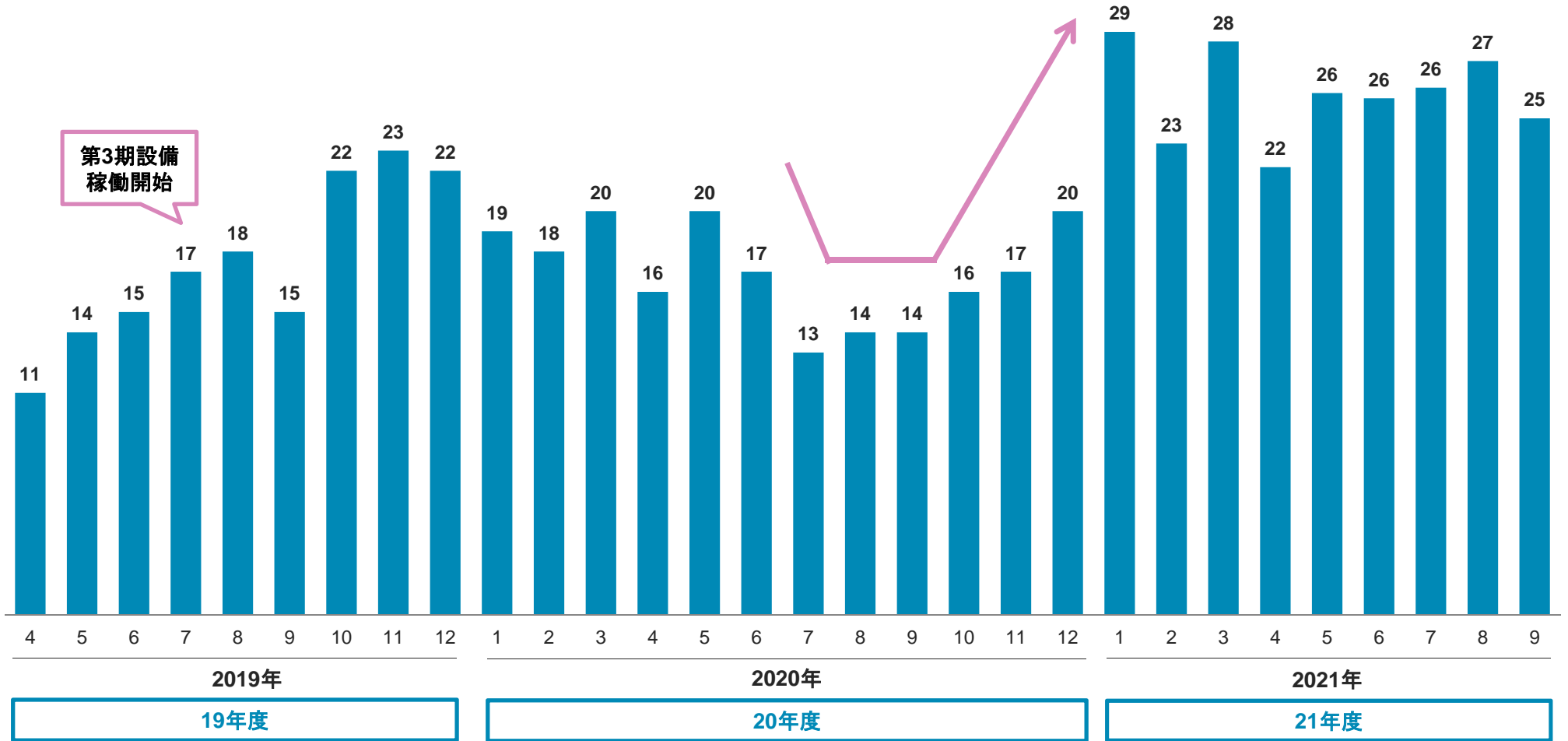
ぜひご一読いただき、
忌憚のないご意見やご感想をお寄せください

(HP) <https://www.uacj.co.jp/ir/library/factbook.htm>

5. ご参考データ

UATH 月次販売量推移

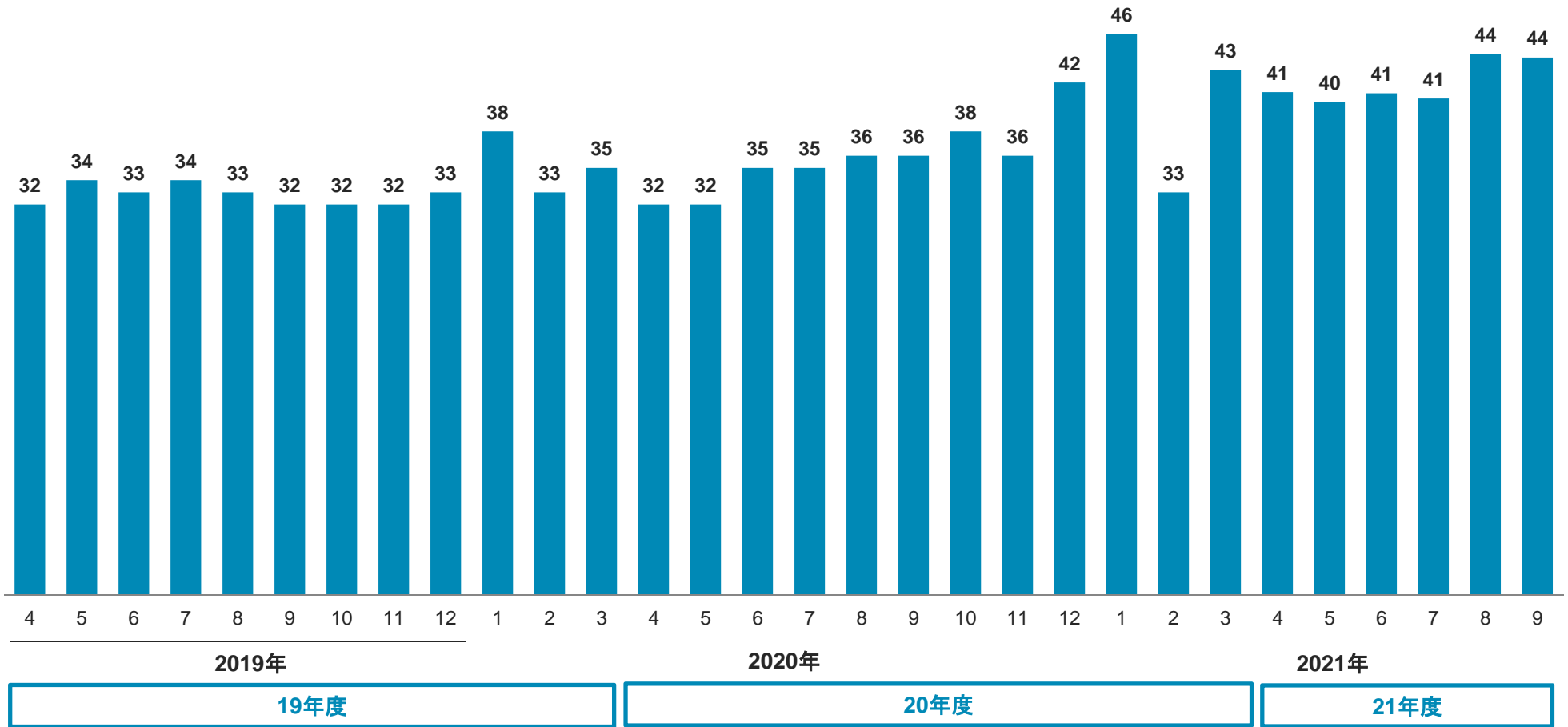
(単位：千t)



5. ご参考データ

TAA 月次販売量推移

(単位：千t)



5. ご参考データ

セグメント別 売上高・営業利益 見通し

(単位:億円)	2021年度 (5月時見通し) (A)		2021年度 (8月時見通し) (B)		2021年度 (最新見通し) (C)		2020年度 (D)		増減 (C)-(A)		増減 (C)-(B)		増減 (C)-(D)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
アルミ 圧延品	5,920	266	6,430	377	6,660	542	4,778	172	740	276	230	165	1,882	370
加工品 ・関連事業	1,480	9	1,300	9	1,580	11	1,651	△ 6	100	2	280	2	△ 71	17
(調整額)	△ 800	△ 55	△ 730	△ 56	△ 740	△ 53	△ 731	△ 54	60	2	△ 10	3	△ 9	1
合計	6,600	220	7,000	330	7,500	500	5,698	111	900	280	500	170	1,802	389

5. ご参考データ

国内収益構造改革と、選択と集中

国内収益構造改革及び、選択と集中による事業再編は実行フェーズから成果出しフェーズに

国内収益構造改革の進捗

生産拠点の集約

- 深谷製造所下工程停止
- 日光製造所閉鎖
- 押出小山/名古屋プレス集約と適正化

最適生産体制・品種構成改善

- コロナ禍でも需要が増加する商材の重点販売
- 価格是正交渉の継続
- 国内4製造所の生産モニタリング強化

間接費削減

- 間接部門の業務効率化に向け、BPR*1を実施
- コーポレート機能の集約/スリム化に向けた最適体制を検討
- 経費コントロールを強化し、経費総額を抑制

選択と集中による事業再編

国内事業

- 伸銅事業の売却
- 日光製造所 閉鎖
- 金属加工深谷工場 閉鎖
- 金属加工大阪工場 閉鎖
- 物流子会社株式譲渡 等

海外事業

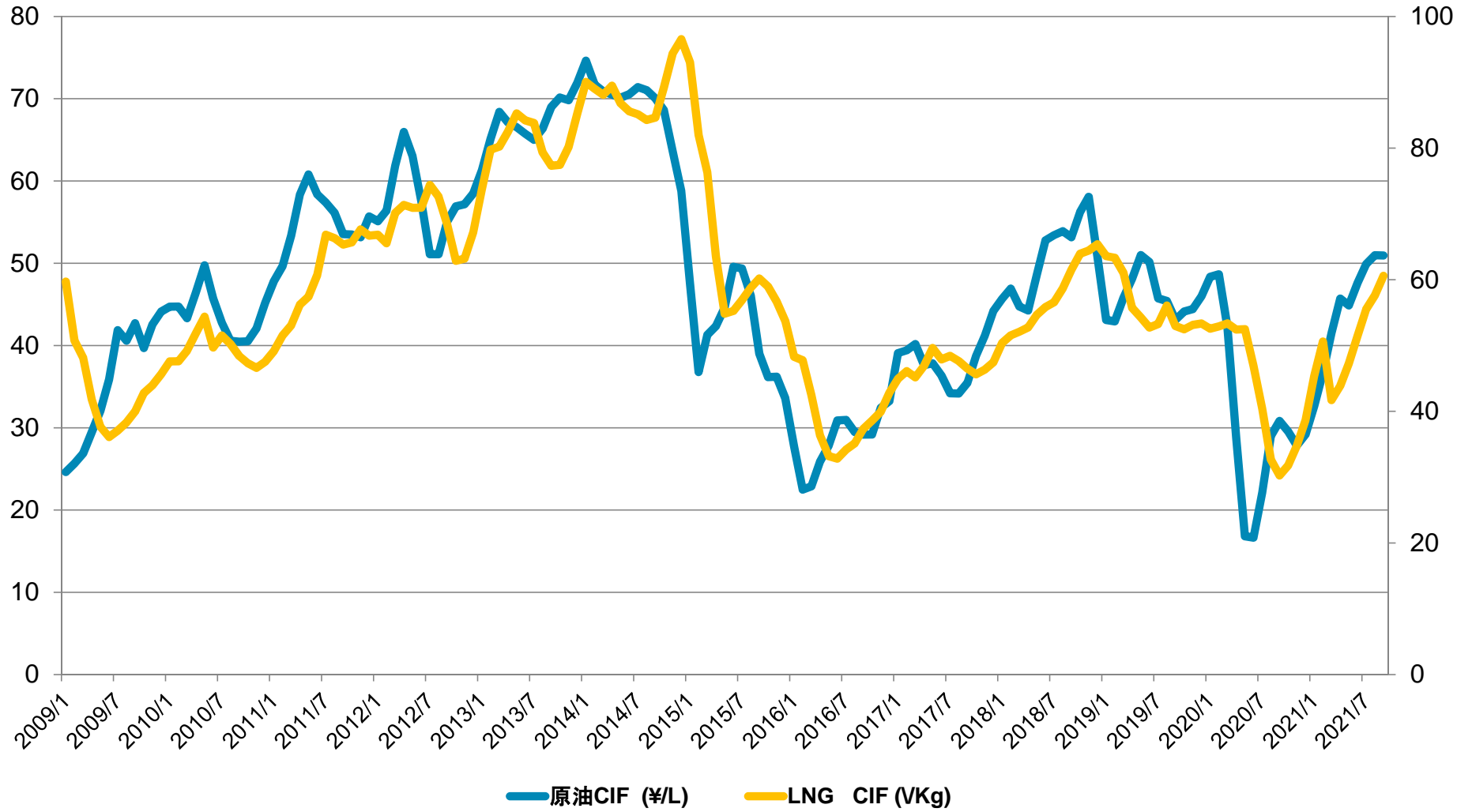
- インドネシア押出会社 譲渡手続き完了
- タイPF熱交*2事業 譲渡決定
- タイ押出加工 アユタヤ工場閉鎖
- 中国・天津押出子会社 株式一部譲渡決定 等

*1 BPR ビジネス・プロセス・リエンジニアリングの略称。社内の業務内容やフロー、組織の構造などを根本的に見直し、再設計すること

© UACJ Corporation. All rights reserved. *2 PF熱交 冷房専用エアコン室外機用オールアルミ熱交換器

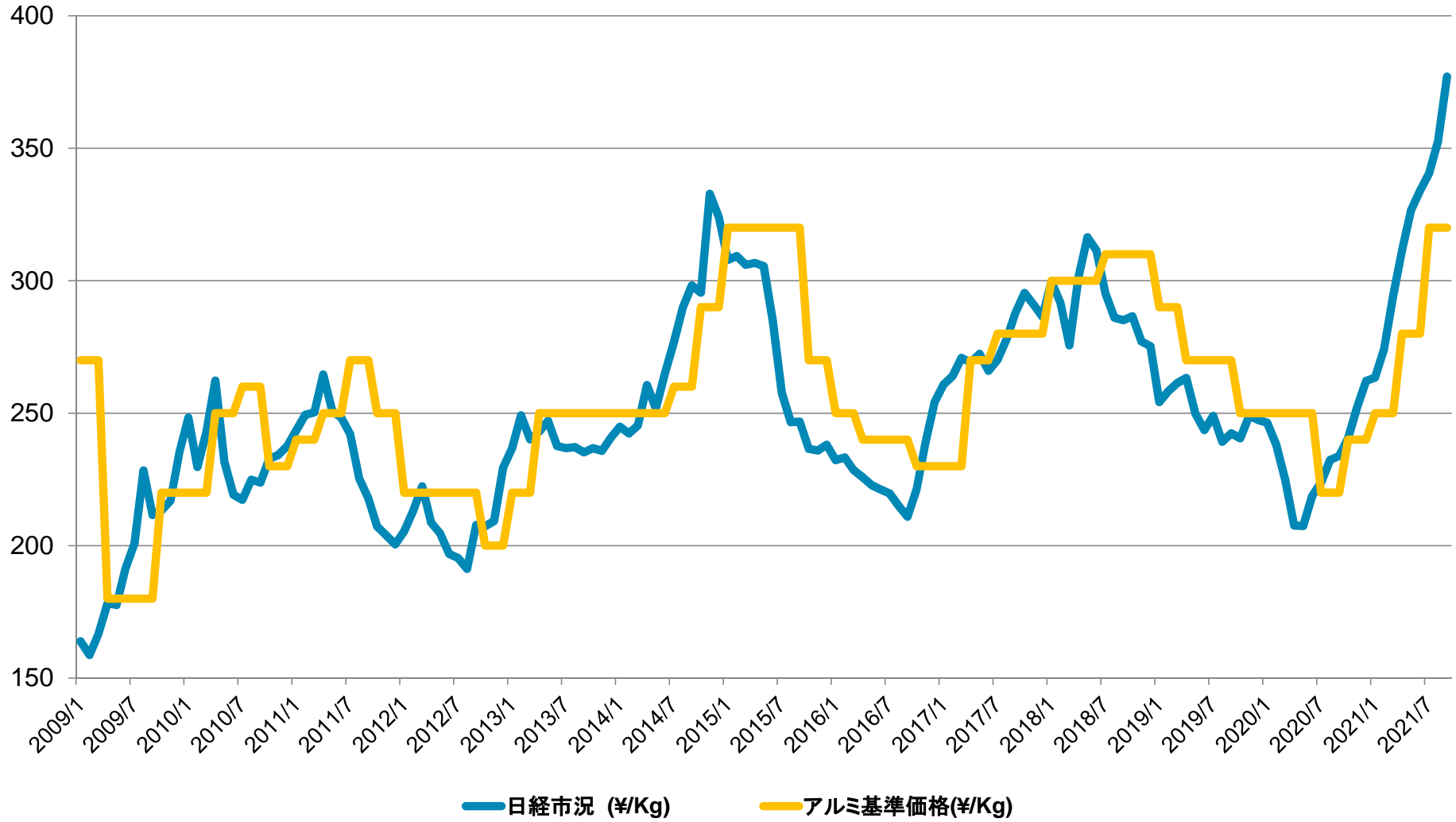
5. ご参考データ

燃料単価推移



5. ご参考データ

アルミ地金日経平均・アルミ基準地金



5. ご参考データ

諸元と感応度

	2019年度 (実績)	2020年度 (3月末)	2021年度 (9月末)	経常利益への 感応度
アルミ地金 日経平均 (円/kg)	245	243	356	10円/kg上昇した場合 →+20~30億円/年
LME (米\$)	1,749	1,802	2,612	\$100/t上昇した場合 →+22~35億円/年
為替 (円/米\$)	109	106	110	ほぼ影響なし ・燃料単価、添加金属:円高が有利
為替 (円/タイバーツ)	3.5	3.4	3.4	・ロールマージン、為替換算差:円安 が有利
原油 (ドバイ:米\$)	60	45	74	10ドル上昇した場合 →△10~15億円/年

将来情報についての注意事項

この資料に記載されております売上高及び利益等の計画のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、当社グループの各事業に関する業界の動向についての見通しを含む経済状況ならびに為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報をもとにした当社グループの仮定及び判断に基づく見通しを前提としております。

これら将来予想に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しており、実際の売上高及び利益等と、この資料に記載されております計画とは、今後さまざまな要因によりこれらの業績見通しとは大きく異なる場合があり、確約や保証を与えるものではないことをご承知おきください。

また、本資料は投資勧誘の目的のための資料ではありません。

著作権等について

この資料のいかなる部分についてもその著作権その他一切の権利は、株式会社UACJに帰属しており、あらゆる方法を問わず、無断で複製または転用することを禁止します。

本資料並びにIR関係のお問い合わせにつきましては、下記までお願いいたします。

財務本部 IR部 TEL : 03-6202-3603 FAX : 03-6202-2023
URL : <http://www.uacj.co.jp>
(東証1部 コード番号 : 5741)



Aluminum lightens the world

アルミでかなえる、軽やかな世界